クドバス活用による親能力確実習得プログラム研究

西村美東士

1. 目的

「親能力確実習得プロジェクト」の目的は、「親の役割発揮に必要な能力を確実に習得できる成人教育プロセスの確立」であり、そのために、「達成目標が明確に示された子育て学習の内容・方法に関する研究開発」を進めている。そこで、本研究では、職業能力開発手法（クドバス）を活用して、達成目標が明示された学習プログラムを作成し、その効果を確かめたい。

2. 方法

クドバスを活用して学習内容を編成し、その成果の妥当性を検討する。

さらに、その成果をもとに評価票を作成し、学習プログラムの実践において、その実際の効果を実証的に検討する。

以下、クドバスの概要について説明しておきたい。

(1) クドバス開発の経緯

クドバスの概要を、その創始者である森和夫による数点の文献からまとめれば、次のとおりである。[1]

クドバス(CUDBAS＝Curriculum Development Method Based on Ability Structure)は1990年に開発されたカリキュラム開発手法である。

1989年、労働省を中心に、森らはプロッツ(PROTS＝Progressive Training System for Instructor)という指導技術訓練システムの開発に着手した。これは海外で技術指導にあたる指導者たちに特に必要性が高かった指導技術訓練システムを開発しようとしたものである。クドバスはその一環として開発された。

(2) クドバスの特徴

クドバスによって、教育内容項目を具体的な行動目標として能率的に記述し、カリキュラムもしくは教育計画を立案することができる。

森はクドバスでできることとして、次の13点を例示している。

①保有する技術・技能の評価

②職員の能力におけるウイークポイントの検索

③新規事業の立ち上げ可能性についての能力面からの検証

1　森和夫ほか,『PROTS INSTRUCTER'S HANDBOOK - Drawing up a Training Program』, 海外職業訓練協会, 1990.7。森和夫 ,『現場でできる技術・技能伝承マニュアル』, 日本プラントメンテナンス協会 2002.2。同『職務分析から見た保健師の仕事と役割』, 母子愛育 会研修テキスト ,2002.6。その他、同氏のホームページ など。

④職員の現状把握と経営戦略への立案、教育計画の立案
⑤教育システムの確立
⑥継続教育マニュアルの作成
⑦ＯＪＴマニュアルの作成
⑧テキスト、教材の開発
⑨管理職、マネジメント教育のツールとして実施
⑩人事考課への活用、処遇の決定
⑪人事配置・プロジェクト担当チームの編成
⑫問題解決手法への適用
⑬発想法としての応用

クドバスの特徴としては、次の６点が挙げられている。

①「早くできる」
②「手続きがシンプルで簡単である」「あまり多くの教育は必要としない」
③「小集団の意思決定によるものである」
④「第一人者であれば説得力があるものになる」「分析する内容についてよく知る人であれば誰でも参加でき、安直である」
⑤「分析する途中の全てのプロセスが記録に残るため、改訂や見直しができ、他者への説明にも役立つ」
⑥「応用範囲が広い」

(3) クドバスの進め方の概要

クドバスの進め方としては、次の５つのステップを踏むことになる。これらは、参考文献やホームページなどで公開されている「マニュアル」を使って、読み上げながら実施することが可能である。

①職場の熟練者について「何ができるか」、「何を知っているか」、「どんな態度が取れるか」で１件につき１枚のカードに書き出す。
②それらのカードを仕事の単位でまとめていく。
③水準の順序で並べ直す。
④カードごとの水準を書き入れる。
⑤能力資質リスト図に転記する。

作業は、その職業について知る人５～６人程度で行う。各方面からの参加が望ましい。その際の注意事項は次のとおりである。

①メンバーは同等の資格、権限で進めること。
②個人への批判や攻撃はしないこと。
③互いに協同して良いリストを作成すること。
④固定観念にとらわれず、柔軟に発想を出すこと。

能力カード作成にあたっては、「人格的なものや性格などは除く」とされている。また、他の人との重複は気にしないで、いろいろな角度から書く。所要時間は１枚につき１分程度で、一人20枚程度が想定されている。

書き込まれたすべてのカードを机の上に置く。同一内容のカードは重ね、類似カードは近くに置く。重ねたカードは内容を点検し、最も内容を代表するカードを一番上にする。適切なカードがなければ、新たに書き足す。確認してホチキスでとめる。ただし、少しでも違っていれば独立させる。

次に、これらを見渡して仕事内容でグルーピングする。仕事カードの語尾は「～をする」を使う。仕事カードごとに能力カードを右横に並べる。並んだ能力カードを重要度の高いものから順に右へ並べ直す。重要度のランクA、B、Cを決めて記入する。

次に縦の配列を行なう。カード群を比較して重要度の高い分類から順に下へ向かって並べる。『必要能力・資質リスト』は以上で完成である。

指導者がいなくてもできること、また、90分程度で作業が完成することが想定されていることは、学習内容編成者にとっての実用性を保障するものであると同時に、先に述べたような「学習者参画によるプログラム作成」や「学習者個人の学習目標への自己関与」を可能にする道具としても注目に値すると考える。

3．経過

筆者は、2004年度後期の社会教育主事課程授業「家庭教育と社会教育」において、クドバスを活用して学習内容を編成し、以下の仮説を設定して、その成果の妥当性を検討した[2]。

［高校生の子をもつ親の子育て能力を、「～を知っている」（知識）、「～ができる」（技能）、「～の態度がとれる」（態度）の３種類の表現のいずれかで表記して、これを構造化することにより、明確な到達目標をもった効果的な学習プログラムを編成することができる。］

作成した書類は次の７点である。

①学習プログラム作成課題シート（表１）
②必要能力・資質リスト（表２）
③必要能力・資質構造図（表３）
④科目別学習目標シート
⑤テーマ別学習目標シート
⑥学習スケジュール表（表４）
⑦学習設備・機器・物品準備計画書

4．結果

上記成果を検討した結果、次のように結論づけた。

本研究では、子育て能力を分解して、知識、技能、態度の３側面から表記し、これを構造化して、そのまま学習プログラムに反映させたのであるから、仮説で設定したように学習目標が明確化するのは当然の結果であったといえる。実際にも、学習スケジュール作成の段階にあっては、比較的容易に、テーマごとの学習目標を設定することができた。

2　詳しくは、次稿を参照されたい。西村美東士.「クドバスを活用した子育て学習の内容編成－高校生の子をもつ親のために」. 聖徳大学生涯学習研究所紀要『生涯学習研究３』. pp.41-54., 2005.3。

また、そこで設定された学習目標は、各回の担当者及び講師にも明確に認識されるし、他の回とは重複しないため、支援が責任をもって目的的に行われるという実践面での大きなメリットが期待できる。

本研究で得られたこのような知見は、本論の冒頭で述べたような「子育て学習の内容編成作業の組織化」や「学習機会提供事業の到達目標の設定」の意義とあり方を示すものとしても有効であるといえよう。

しかし、その学習プログラムを十分に効果的なものとするための課題として、次の４点を指摘した。

①子育て実践能力としての「自信」の達 成度評価

②子育て実践に求められる統合的能力の 育成

③レッスンプランの作成による事業計画 と達成度評価の緻密化

④青少年に対する社会的要請の学習プロ グラムへの織り込み

その後、本研究で得た知見をもとに、クドバスを活用した親教育プログラムの実践、学生参画による『若い女性のための出産自己決定マニュアル』作成授業などを実践してきた。これらについては、別章で論ずる。

5. 課題

平成19年度には、松戸市教育委員会生涯学習本部公民館が主催する春の「学習グループ支援講座」において、市民がクドバスを活用して

「家庭教育学級」を企画し、秋にこれを実践するという計画を進めている。

このことにより、「達成目標が明確に示された子育て学習の内容・方法」の効果と、「親の役割発揮に必要な能力を確実に習得できる成人教育プロセスの確立」のあり方について、より詳しく、実践的に確かめていきたい。

その場合、表５に示したような「受講者評価票」を作成し、上記事項について実証的に検討することが重要であると考える。

表1　①　学習プログラム作成課題シート

課題　下記の設定にしたがって学習プログラムを作成しなさい。		
学習ニーズ	高校生は、自分の力で充実した生活を送り、また、親と相互に生活を支えあって、社会的自立に備えることが望まれる。しかし、そのための家庭の教育力が低下していると考えられる。このため、自分の子育てに問題を感じている親が、望ましい親像を理解し、それを実践できるようにする。	
講座設定	講座名称	高校生の子を持つ親のための講座
	受講人数	30人
	受講期間	2005年９月６日（火）～2006年３月14日（火）10:00～12:00（28週） ただし12月27日と１月３日を除く。初日はアイスブレーク。
	受講時間	２時間×25週＝50時間
	会場	Ｓ大学生涯学習センター（おもに50人規模の会議室を使用する）
	合宿	学習時間の枠外で１泊２日の親除旅行を行う（家族同伴可）
	講座担当者	大学授業「家庭教育と社会教育」受講学生
	受講対象	自分の子育てに問題を感じている高校生の子をもつ親
作成書類	①学習プログラム作成課題シート、②必要能力・資質リスト、③必要能力・資質構造図、④科目別学習目標シート、⑤テーマ別学習目標シート、⑥学習スケジュール表、⑦学習設備・機器・物品準備計画書	

表2 ② CUDBAS 必要能力・資質リスト「高校生の子をもつ親」(列・行ともに重要度順)

仕事	能力－1	能力－2	能力－3	能力－4	能力－5
1 前向きな態度を示す	1－1A	1－2A	1－3A	1－4B	1－5B
	人生に対して前向きな態度がとれる	人権を尊重する態度がとれる	自分が間違っていたら子に謝ることができる(BBS)	親自身がうまくいかないとき、ヒステリックでない態度がとれる	家族旅行をしたとき楽しい態度がとれる
2 子の変化を待つ	2－1A	2－2A	2－3A	2－4A	2－5B
	ほっといておくことができる	子のプライバシーを尊重する態度がとれる	知っていても知らない態度がとれる	子を信頼することができる	子にとっては家がわずらわしいことを知っている
3 子の実態を理解する	3－1A	3－2A	3－3A	3－4B	3－5B
	子の今の精神状態を知っている	青年期は不安定な気持ちでいることを知っている	青年期の心理的特徴を知っている	すぐに反抗してくることを知っている	子の生活態度を知っている
	3－6B	3－7B	3－8B	3－9B	
	親にうそをつくことを知っている	子の友人関係を知っている	彼(彼女)がいるのを知っている	望ましい勉強方法を知っている	
4 子と意識的に関わる	4－1A	4－2A	4－3A	4－4A	4－5A
	子からの相談や話し合いに応ずることができる	何に関心がある かを知っている	じっくり話を聞くことができる	わが子に注意ができる	子が悪いことをしたときき然とした態度がとれる
	4－6B	4－7B	4－8B	4－9B	4－10B
	子がパニックにおちいっているとき冷静な態度がとれる	子が落ち込んでいるとき上手に励ますことができる	家では食事を一緒にするよう誘うことができる	わが子にあいさつができる	高校生に適した性教育ができる
	4－11B	4－12B	4－13B		
	子からの進路相談に応じることができる	現代社会の就職状況や仕事の内容について知っている	部活のおっかけができる		
5 他の関係者と連携する	5－1A	5－2B	5－3B		
	学校の様子を知っている	同じ高校生の子を持つ親と情報交換や相談をすることができる	学校側と緊密かつ自立的な連携ができる		
6 家庭を安らぎの場にする	6－1A	6－2B	6－3B		
	家族との会話ができる	他愛ないおしゃべりができる	励ます時、子が何を食べたいかを知っている		
7 子と相互に生活を支え合う	7－1A	7－2A	7－3A	7－4B	7－5B
	お酒いの態度がとれる	そうじ、片づけを子にさせることができる	食事の仕度、洗たく、そうじができる	高校生に必要な栄養素について知っている	子にとっての必需品を買うことができる(興し物)

注1 能力の種別は右のとおりである　知識　技能・態度

注2 能力の重要度は右のとおりである　A：非常に重要で、詳細に知っているか、よくできる必要がある
B：普通であって、一般的に知っているか、普通にできればよい
C：あまり重要でなく、概略を知っているか、体験していればよい

表3　③　必要能力・資質構造図

仕事＼科目	1子が自慢したくなる親になる方法	2二面性を生きる	3子どもの心をわかるために	4子と考える未来の仕事	5あなたも旅行プランナー	6大学とは何か・受験とは何か
1前向きな態度を示す			1-4	1-1 1-2 1-3	1-5	
2子の変化を待つ	2-1	2-3 2-4 2-5	2-2			
3子の実態を理解する	3-7 3-8	3-5 3-6	3-3 3-4		3-2	3-1 3-9
4子と意識的に関わる	4-4 4-9 4-10 4-13	4-5 4-6 4-7	4-1	4-12	4-2 4-3 4-8	4-11
5他の関係者と連携する						5-1 5-2 5-3
6家庭を安らぎの場にする	6-3	6-2		6-1		
7子と相互に生活を支え合う	7-5	7-1		7-2 7-3 7-4		

表4 ⑥ 学習スケジュール表

年月日	科目	学習方法とテーマ	講師	学習目標
2005/09/06 準備週	開講式	アイスブレーク 各自の学習希望についての話し合い	講座担当者	
2005/09/13 第1週	3 子どもの心をわかるために	3－1 講義・インタビューダイアローグ 青年期の心理的特徴	教育心理研究者	3－3青年期の心理的特徴を知っている。 3－4すでに反抗してくることを知っている
2005/09/20 第2週	1 子が自慢したくなる親になる方法	1－1 ビデオ・講義・パス討議 高校生の愛と性①	公立高校養護教諭	4－10高校生に適した性教育ができる
2005/09/27 第3週		1－2 キャストゲーム 高校生の愛と性②	講座担当者	3－7子の友人関係を知っている。3－8後(彼女)がいるのを知っている
2005/10/04 第4週		6－1 インタビューダイアローグ 大学生を育んで本音を聞こう	大学生・講座担当者	3－1子の今の精神状態を知っている
2005/10/11 第5週	6 大学とは何か・受験とは何か	6－2 講義 予備校校長に受験の極意を聞く	予備校校長	3－9望ましい勉強方法を知っている。4－11子からの進路相談に応じることができる
2005/10/18 第6週		6－3 シンポジウム 高校・専門学校・大学教師の声	高校・専門学校・大学の教師	5－1学校の様子知っている。5－2独の愛と情報交換相談できる。5－3学校側と連携できる
2005/10/25 第7週	3 子どもの心をわかるために	3－4 ジェスチャーヒントマイム 言葉以外でいを伝える・受け止める	講座担当者	1－4親自身がうまくいかないとき、ヒステリックでない態度がとれる
2005/11/01 第8週		3－2 講義・ロールプレイ ちゃんと言葉で伝えよう	臨床心理研究者	4－1子からの相談や話し合いに応ずることができる
2005/11/08 第9週		3－3 講義・ロールプレイ 言語・非言語、あの手この手	臨床心理研究者	2－2子のプライバシーを尊重する態度がとれる
2005/11/15 第10週	1 子が自慢したくなる親になる方法	1－4 講義・調理実習 子どもを励ます料理教室	調理師	6－3励ます時、子が何を食べたいかを知っている
2005/11/22 第11週	2 二面性を生きる	2－1 講義 高校生のオモテとウラ	私立高校スクールカウンセラー	2－4子を信頼することができる。4－5子が悪いことをしたときき教えた態度がとれる
2005/11/29 第12週		2－2 ケーススタディ 高校生のオモテとウラ	講座担当者	2－3知らない態度とれる。3－6うそつくことを知っている。4－6パニック冷静な態度がとれる
2005/12/06 第13週		2－3 ロールプレイ お願いトレーニング	講座担当者	7－1お願いの態度がとれる
2005/12/13 第14週	1 子が自慢したくなる親になる方法	1－3 事例発表・話し合い 逆感おっかけにならない方法	受講者・講座担当者	2－1きっとくことできる。4－13おっかけできる。7－5必要品買うことできる
2005/12/20 第15週	2 二面性を生きる	2－4 講義 居場所づくり心得	引きこもり青年の居場所主宰者	2－5家がすらわしいことを知っている。3－5生活態度知っている。6－2徒愛ないおしゃべりできる
2005／12／27，2006／01／03 休み				
2006/01/10 第16週	4 子と考える未来の仕事	4－5 講義・一問一答 現代の仕事おれやこれや	ハローワーク職員	4－12現代社会の就職状況や仕事の内容について知っている
2006/01/17 第17週	5 あなたも旅行プランナー	5－1 ワークショップ①	講座担当者	1－5家族旅行をしたとき楽しい態度がとれる。4－3じっくり話を聞くことができる
		旅行プランナー演習		
2006/01/24 第18週		5－2 ワークショップ②		3－2青年期は不安定な気持ちでいることを知っている。4－2何に悩くがあるかを知っている
		旅行プランナー演習		
2006/01/31 第19週		5－3 ワークショップ③		4－8家では食事を一緒にするよう誘うことができる
		旅行プランナー演習		
2006/02/07 第20週	4 子と考える未来の仕事	4－1 ワークショップ	消費生活アドバイザー	7－2そうと、片づけを子にさせることができる。7－3食事の後、洗たく、そうじができる
		家事テキパキ段取り計画作成		
2006/02/14 第21週		4－2 講義・調理実習 冷蔵庫残り物活用大作戦	栄養士	7－4高校生に必要な栄養素について知っている
2006/02/21 第22週		4－3 パネルディスカッション(公開) フリーター是か非か議論激突	社会学研究者・教育学研究者・青年	1－2人権を尊重する態度がとれる
2006/02/28 第23週		4－4 キャストゲーム フリーター是か非か親子対決	講座担当者	1－1人生前向き態度がとれる。1－3間違っていたら子に謝ることができる。6－1家族との会話ができる
2006/03/07 第24週	2 二面性を生きる	2－5 ロールプレイ 家庭をわが子の居場所にしよう	講座担当者	4－2子が落ち込んでいるとき上手に慰ますことができる
2006/03/14 第25週	1 子が自慢したくなる親になる方法	1－5 ロールプレイ 対決 子VS親	講座担当者	4－4わが子に注意ができる。4－9わが子にあいさつができる

表5 学習目標別受講者評価票（縮小版）

「高校生の子を持つ親のための講座」受講者評価票

まず、あなたのことについておたずねします。								性別	女	男
職業経験年数	なし	3年まで	10年まで	20年まで	20年以上	現在	パート	バイト	常勤	無職
欠席された回数		0回		3回まで		6回まで	9回まで	12回まで		13回以上

つぎに、下記のうち、もっともあてはまる**数字**に○をつけてください。

受講いただきありがとうございました。今後、より効果的な講座を開くため、受講前と受講後のそれぞれの学習目標についての自信の有無をお答えください。ただし、どちらかといえば自信がない場合は「①」に、どちらかといえば自信がある場合は「③」に○をつけてください。どちらともいえない場合だけ「②」に、○をつけてください。	1 受講前			2 受講後		
	そう思わない	わからない	そう思う	そう思わない	わからない	そう思う
01 人生に対して前向きな態度がとれる	1-	2	-3	1-	2	-3
02 人権を尊重する態度がとれる	1-	2	-3	1-	2	-3
03 自分が間違っていたら子に謝ることができる	1-	2	-3	1-	2	-3
04 親自身がうまくいかないとき、ヒステリックでない態度がとれる	1-	2	-3	1-	2	-3
05 家族旅行をしたとき楽しい態度がとれる	1-	2	-3	1-	2	-3
06 ほっといておくことができる	1-	2	-3	1-	2	-3
07 子のプライバシーを尊重する態度がとれる	1-	2	-3	1-	2	-3
08 知っていても知らない態度がとれる	1-	2	-3	1-	2	-3
09 子を信頼することができる	1-	2	-3	1-	2	-3
10 子にとっては家がわずらわしいことを知っている	1-	2	-3	1-	2	-3
11 子の今の精神状態を知っている	1-	2	-3	1-	2	-3
12 青年期は不安定な気持ちでいることを知っている	1-	2	-3	1-	2	-3
13 青年期の心理的特徴を知っている	1-	2	-3	1-	2	-3
14 すぐに反抗してくることを知っている	1-	2	-3	1-	2	-3
15 子の生活態度を知っている	1-	2	-3	1-	2	-3
16 親にうそをつくことを知っている	1-	2	-3	1-	2	-3
17 子の友人関係を知っている	1-	2	-3	1-	2	-3
18 彼（彼女）がいるのを知っている	1-	2	-3	1-	2	-3
19 望ましい勉強方法を知っている	1-	2	-3	1-	2	-3
20 子からの相談や話し合いに応ずることができる	1-	2	-3	1-	2	-3
21 何に関心があるかを知っている	1-	2	-3	1-	2	-3
22 じっくり話を聞くことができる	1-	2	-3	1-	2	-3
23 わが子に注意ができる	1-	2	-3	1-	2	-3
24 子が悪いことをしたとき、き然とした態度がとれる	1-	2	-3	1-	2	-3
25 子がパニックにおちいっているとき冷静な態度がとれる	1-	2	-3	1-	2	-3
26 子が落ち込んでいるとき上手に励ますことができる	1-	2	-3	1-	2	-3
27 家では食事を一緒にするよう誘うことができる	1-	2	-3	1-	2	-3
28 わが子にあいさつができる	1-	2	-3	1-	2	-3
29 高校生に適した性教育ができる	1-	2	-3	1-	2	-3
30 子からの悪路相談に応じることができる	1-	2	-3	1-	2	-3
31 現代社会の就職状況や仕事の内容について知っている	1-	2	-3	1-	2	-3
32 部活のおっかけができる	1-	2	-3	1-	2	-3
33 学校の様子を知っている	1-	2	-3	1-	2	-3
34 同じ高校生の子を持つ親と情報交換や相談をすることができる	1-	2	-3	1-	2	-3
35 学校側と緊密かつ自立的な連携ができる	1-	2	-3	1-	2	-3
36 家族との会話ができる	1-	2	-3	1-	2	-3
37 慈愛ないおしゃべりができる	1-	2	-3	1-	2	-3
38 励ます時、子が何を食べたいかを知っている	1-	2	-3	1-	2	-3
39 お願いの態度がとれる	1-	2	-3	1-	2	-3
40 そうじ、片づけを子にさせることができる	1-	2	-3	1-	2	-3
41 食事の仕度、洗たく、そうじができる	1-	2	-3	1-	2	-3
42 高校生に必要な栄養素について知っている	1-	2	-3	1-	2	-3
43 子にとっての必需品を買うことができる	1-	2	-3	1-	2	-3

西村美東士：クドパス活用による親能力確実習得プログラム研究．聖徳大学子育て支援社会連携研究「連鎖的参画による子育てのまちづくりに関する開発的研究」平成17・18年度研究集録、pp.127－133、2007　から再掲。